



令和7年3月15日
第891号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0001 東京都千代田区
九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話 03-3261-5521
振替 00160-6-25389
編集発行人 盛川英治
毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

第32回 令和7年度事業計画を承認 終戦80周年記念事業を実施

2月18日、第32回理事会が開催され、令和7年度活動方針・事業計画が承認された。終戦80年の節目に遺族会の社会的意義を示すため、各種記念事業を企画し、組織の拡充強化を図る体験者の記憶を次世代とともに伝える平和の語り部事業の具体的な広報戦略の展開が審議され、承認された。

水落敬栄会長は冒頭の挨拶で、「戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に伝える平和の語り部事業はまさに英霊顕彰であり、遺族会の語り部が政府から認められ、予算に計上されたことを誇りに思い、事業を推進しなければならぬ」と話し、令和8年度予算での平和の語り部事業のさらなる予算拡充を訴える水落会長 = 2月18日、九段会館テラスで



語り部事業の更なる推進、予算拡充を訴える水落会長 = 2月18日、九段会館テラスで

平和の語り部推進加速 第4ブロック合同研修会開催

平和の語り部事業の普及・拡大、永続的な実施を話し合う第4ブロック合同研修会が2月8日、徳島市内において開催され、7県が参集した。(天候により島根・鳥取両県は欠席)

冒頭水落敬栄本会長は、語り部は遺族の社会的責務で今後の遺族会の主事業と挨拶。続いて坂千代克彦徳島県遺族会会長は、青年部と共に出来ることを重ね、当事業を推進しようと挨拶した。本部は終戦80周年を事業周知の年とし、行政・

族会が社会的に意義ある団体を示すため、体験者である遺族の記憶を戦争後生まれの青年部とともに次世代へ伝える遺族会にしかできない語り部を行政と報道機関へPRする広報戦略が示された。

報道双方への広報に重点を置いた企画を説明し、親会、女性部・青年部・事務局に具体的な担当を提案した。



学生との取り組みを報告する黒川真介青年部長(高知県) = 2月8日、徳島市で

その後、演順子本部語り部推進委員(徳島県遺族会副会長)より修学旅行の事前学習としての語り部の注意点等の説明後、絵本の読み聞かせを導入し、当時の家族写真、沖縄の地図、父上の任務など、写真や絵で視覚に訴える講話が披露された。この講話での「父の切実な思いは、今を生き

また、令和7年度は予算が大幅に増額され、予算額に見合った活動が求められることから、各支部で最低36回の語り部事業の実施を目標とすることとした。

その後は、学校、折念館を中心とした語り部、自分史座談会による活動者の発掘、報道機関との連携(岡山県、追悼式講話型、実演披露とグループ座談会の実施(広島県、小学校教員OBと青年部がタイアップした講話

の懸命な取り組みが紹介された。

島県は、自前の記念館における自由な講話が多様なテーマと幅広い世代の活動者育成に寄与と説明。加えて報道機関への情報提供が講話の発掘に繋がっていると話した。

同会議では、まず令和7年度歳入歳出予算案を審議し了承を得た後、令和7年自民党員獲得目標について審議し、終戦80年の節目の時機を逃さず本連盟の要望を実現するため重要となる新規党員の獲得が承認された。

(山口県)、慰霊碑を紹介するスタンプリ、子供会との慰霊碑清掃、追悼式での平和作文朗読働きかけ(香川県)、平和資料展開催、小学校への派遣講話(愛媛県)、学生と慰霊碑清掃、いわれを伝える、学生との動画制作(高知県)など、各支部の活動が報告された。

全国的先進県である徳島県は、自前の記念館における自由な講話が多様なテーマと幅広い世代の活動者育成に寄与と説明。加えて報道機関への情報提供が講話の発掘に繋がっていると話した。

翌日靖国神社参拝後徳島県戦没者記念館「あしたへ」で特別企画展等を視察し、幕を閉じた。

第27回参院選へ支援強化 日本遺族政治連盟

日本遺族政治連盟は、2月18日、理事会を九段会館テラスにおいて開催した。

同会議では、まず令和7年度歳入歳出予算案を審議し了承を得た後、令和7年自民党員獲得目標について審議し、終戦80年の節目の時機を逃さず本連盟の要望を実現するため重要となる新規党員の獲得が承認された。

た。(詳細2面掲載) その他、令和7年度新規事業として予算化された国内民間建立慰霊碑調査事業は、慰霊碑を維持管理している遺族会の意向に沿った形で整理統合されるよう、各支部の青年部が中心となって全国で1万6千基以上ある慰霊碑の実態調査を実施することなどが決まった。

声なき声

天皇陛下は去る2月23日、65歳の誕生日を迎えられた。記者会見では、戦後80年の節目に際し、「日本において80年間、平和の時代が続いていることを有難いことと思う」と述べられた。戦後生まれの人々が大半を占める今の時代、戦争の歴史との向き合い方、その役割についてという記者からの問いに、「戦争の記憶が薄れようとしている今日、戦争を体験した世代から戦争を知らない世代に、悲惨な体験や歴史が伝えられていくことが大切である。(中略)▼そして、戦中・戦後の苦難を体験した方々が高齢となり、当時のことを語り継いでいくことが難しくなっている中、国内各地で若い人たちが戦争を知ろうとし、次の世代の語り部として育ち、戦中・戦後の苦難を語り継ぐ活動が進められていることは、(中略)一層意義深いものとなっている」との認識を示された▼本年は遺族会の覚悟を問われる一年となる。天皇陛下の御心に応えるためにも、戦没者遺族に課せられた社会的責務として、体験者と戦後生まれの青年部が手を携えて「平和の語り部事業」を推進しなければならぬ。当事業を次世代に伝承できるか、正に真価が問われる一年、全国各地から皆で戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぎましょう。(M)

さくら咲く靖国神社へ

期間限定
夜桜詣
3月27日(木)~29日(土)
各日 午後6時~8時

靖国神社
東京都千代田区九段北 3-1-1 電話:03-3261-8326

終戦八十年戦跡写真展

今も残る英霊の足蹟

令和7年
3月1日(土)~12月7日(日)

靖国神社 遊就館

【休館日】 令和7年6月24日(火)~26日(木)
【開館時間】 午前9時~午後4時30分(入館は閉館の30分前まで)
【拝観料】 大人 300円 / 大学生 200円 / 中学・高校生 100円
※小学生以下及び崇敬奉賛会会員・常設展拝観者無料

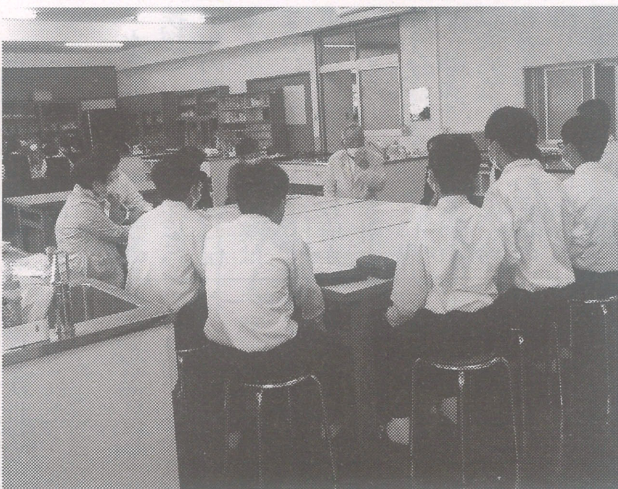
靖国神社 遊就館
YUSHUKAN MUSEUM

戦争の記憶伝承、後継者育成

終戦80周年記念事業を企画

2月18日の理事会で了承された終戦80周年記念事業は、社会的課題である「戦争の記憶の伝承」に込められた団体と示す広報向けの各種企画である。平和の語り部事業を通して社会に奉仕する姿勢を前面に打ち出し、遺族会の社会的意義を高めると共に同事業の更なる普及、拡大に取り組む中で青年部の育成、強化に挑戦する。

令和7年度は遺族会の、各種記念事業を企画語り部を周知する年とし、同事業の意義をPRする



中学生と平和の語り部「対話型」を実施
＝宮崎県で

る広報として実施する。内容は以下の通り。

- (1) 本部全国企画（体験者が語り、次世代と共に考える遺族会の語り部）
「全国各地で戦争と平和について考えよう!!」
戦争体験者に当時の話を聞いてみよう!!
内容：小・中・高等学校で実施されている総合的学習の時間の利用に向けて、全国で左記取組を実施する。
・期間：令和7年4月以降継続的に（本部は3月から毎月1回）
- (2) 本部企画（戦没者遺児による慰霊友好親善事業）
「海に鎮まる30万の御霊を想い、記憶の伝承を考えよう!!」
内容：戦没者の遺児が、海に鎮まる30万の御霊に慰霊を捧げ、旧戦域の方々と友好親善を図る慰霊友好親善事業の中で、戦争の記憶を伝承する「平和の語り部事業」の意義を学び、活動者となる意識を醸成を図る研修を実施する。
・期間：令和7年6月1日（日）～11日（水）
- (3) 本部企画（沖縄平和降参真珠（予定））
・本部企画（47都道府県）
- (4) 本部企画（平和の語り部大会）
「体験者の記憶を次世代へ伝承しよう!!」
体験者が語り、次世代と共に考える平和の語り部大会
- (5) 本部企画（47都道府県）
「体験者の記憶を次世代へ伝承しよう!!」
体験者が語り、次世代と共に考える平和の語り部大会

島根県で青年部結成

全国47支部で組織化

2月16日、島根県遺族連合会は、青年部設立総会ならびに平和の語り部研修会を開催した。

まずは日本遺族会青年部結成までを振り返った。

平成24年組織の後継者育成の必要性が女性部から提言され、全国各支部で戦没者の孫、ひ孫、甥、姪等をつくる青年部の組織化が広がり、平成



青年部結成にあたり決意を語る小林悟
青年部長＝2月16日、松江市で

要とされたため、各支部に粘り強く働きかけ、終戦80年の節目に県青年部結成となった。部員数は約400人を数える。

ち待った青年部設立に迫り着いた」と語り、多くの関係者に謝辞を述べた。

続いて青年部設立の経緯を説明した須山昇副会長は「青年部として執行部に入った私の使命は県青年部結成」と語った。

その後挨拶に立った小林悟青年部長は、比島で亡くなった祖父に触れ、「これからは祖父のことをもっと父に尋ね、慰霊事業に積極的に参加し、仲間と呼びかけ、遺族会

の活動を守り、新たな時代へ推し進めたい」と決意を表明した。

研修会では中岡誠副会長の司会で、本会水落敏栄会長より遺族会の歴史、英霊顕彰、処遇改善運動、語り部の重要性が示された。その後、本部担当者より終戦80周年の語り部事業の具体的展開を説明。語り部を系統的に実施するため次世代の必要性が説明された。

また、地元における語り部の取組み（斐川町）、

平和の語り部事業

栃木県が上京研修会開催

2月9日、栃木県遺族連合会は上京研修会を開催した。昨年12月に結成した青年部育成を主眼とし、靖国神社参拝と平和の語り部研修が内容となる。高野青年部長を中心

に計画された。

朝8時に県護国神社を出発し、バス車中において県事務局より語り部の説明がなされ、更にさくら市岡崎清治氏より遺骨収集事業等が報告された。

靖国神社参拝後、靖国会館において平和の語り部研修会が行われた。

はじめに本部担当者より遺族会の結成、活動の歴史と終戦80周年語り部事業の具体的展開を説明。行政・報道双方へのPR、追悼式を活用した講話・対話・体験型の実

例が示された。

次に大石功本部語り部推進委員（静岡県遺族会会長）より、語り部事業の進め方が説明された。

大石委員は、居住する

慰霊管理、顕彰の取組み（奥出雲町）、慰霊塔遺骨調査（松江市）が報告された。出席した青年部員からは「まずは家族から遺族会活動を伝えたい」との感想が聞かれた。

当日は、県健康福祉部課長が出席。地元新聞3社が駆け付け、翌日大々的に報道された。

なお本会は島根県の結成を受けて「47都道府県青年部結成の集い」を、

6月29日に九段会館テラスで予定している。

祈願慰霊大行進

「沖縄慰霊の日」に、記憶の伝承を考えよう!!

内容：沖縄慰霊の日、戦争の悲惨さ、平和の尊さを世界に訴えるため日本遺族会が沖縄県遺族連合会と共催する「沖縄平和祈願慰霊大行進」に合わせ記憶の伝承を考える。

・期間：令和7年6月22日（日）～24日（火）

・本部企画（平和の語り部大会）

「体験者の記憶を次世代へ伝承しよう!!」

体験者が語り、次世代と共に考える平和の語り部大会

・本部企画（戦没者の遺児が、海に鎮まる30万の御霊に慰霊を捧げ、旧戦域の方々と友好親善を図る慰霊友好親善事業の中で、戦争の記憶を伝承する「平和の語り部事業」の意義を学び、活動者となる意識を醸成を図る研修を実施する。）

・期間：令和7年6月29日（日）～14日（水）

・会場：九段会館テラス

・3階真珠（予定）

・本部企画（47都道府県）

・本部企画（平和の語り部大会）

「体験者の記憶を次世代へ伝承しよう!!」

体験者が語り、次世代と共に考える平和の語り部大会

・本部企画（戦没者の遺児が、海に鎮まる30万の御霊に慰霊を捧げ、旧戦域の方々と友好親善を図る慰霊友好親善事業の中で、戦争の記憶を伝承する「平和の語り部事業」の意義を学び、活動者となる意識を醸成を図る研修を実施する。）

・期間：令和7年6月29日（日）～14日（水）

・会場：九段会館テラス

・3階真珠（予定）

・本部企画（47都道府県）

・本部企画（平和の語り部大会）

「体験者の記憶を次世代へ伝承しよう!!」

体験者が語り、次世代と共に考える平和の語り部大会

・本部企画（戦没者の遺児が、海に鎮まる30万の御霊に慰霊を捧げ、旧戦域の方々と友好親善を図る慰霊友好親善事業の中で、戦争の記憶を伝承する「平和の語り部事業」の意義を学び、活動者となる意識を醸成を図る研修を実施する。）

・期間：令和7年6月29日（日）～14日（水）

・会場：九段会館テラス

・3階真珠（予定）

洗心懇談会

本会主催で開催

靖国神社等、十四団体で構成する洗心懇談会の令和7年度の定例会が2月12日、日本遺族会主催で九段会館テラスにて開催され、本会からは盛川英治事務局長が出席した。

関係団体を代表して盛川局長が挨拶をした後、各団体の活動状況等について説明、意見交換等が行われた。



地方だより
島根県 2月16日
令和6年度役・職員合同研修会並びに青年部設立総会（45人）

山梨県 2月28日
第49回女性部大会（96人）

富山県 2月28日
平和の語り部研修会（43人）

島根県 2月16日
令和6年度役・職員合同研修会並びに青年部設立総会（45人）

山梨県 2月28日
第49回女性部大会（96人）

富山県 2月28日
平和の語り部研修会（43人）

島根県 2月16日
令和6年度役・職員合同研修会並びに青年部設立総会（45人）

山梨県 2月28日
第49回女性部大会（96人）



研修会に参加した大学生、社会人からの感想を聞く
大石功本部語り部推進委員＝2月9日、靖国神社で

参加した大学生、社会人からは「戦争を知らない世代として、今後学びを深め、思いを繋げたい」「戦没者、遺族の思いを継承したい」との感想が聞かれた。

当日は地元下野新聞社も取材に訪れ、後日紙面に掲載された。同県は3月2日に県全体の語り部研修を実施した。

とが発表され、これまでの年であるため、各団体においても、今後多くの記念行事が予定される

ことが確認された。

島根県 2月16日
令和6年度役・職員合同研修会並びに青年部設立総会（45人）

山梨県 2月28日
第49回女性部大会（96人）

富山県 2月28日
平和の語り部研修会（43人）

島根県 2月16日
令和6年度役・職員合同研修会並びに青年部設立総会（45人）

山梨県 2月28日
第49回女性部大会（96人）

富山県 2月28日
平和の語り部研修会（43人）

島根県 2月16日
令和6年度役・職員合同研修会並びに青年部設立総会（45人）

山梨県 2月28日
第49回女性部大会（96人）

富山県 2月28日
平和の語り部研修会（43人）

友好親善事業
慰霊親善事業

南方の地で父に語りかける 西部ニューギニア、タイで慰霊

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施している慰霊友好親善事業で、西部ニューギニア、タイ地域を相次いで実施した。全国から戦没者遺児、青年部の付添者を含め総勢26人が参加し、亡き父が辿った所縁の地を巡り、慰霊追悼するとともに小学校を訪ねて学用品等を贈呈し、生徒や学校関係者と交流を深めた。

西部ニューギニアは2月3日から12日、タイは2月20日から28日の期間で実施し、各訪問団員は初日に東京・九段会館テラスに集合して結団式を行い、靖国神社で旅の安全を祈願した後、父が眠る所縁の地へとそれぞれ出発した。

西部ニューギニア 5兵站病院跡、ジャヤプラではコタルとネター、その後ゲニム、セレス島マカサルでそれぞれ慰霊祭を行い、亡き父に積年の思いを語りかけ、冥福を祈った。

付添で参加した孫3人は母の追悼の後に「おじいちゃんを守ってくれた日本の地で、驚いにくれた命を大切に生きていかなくてはならないと今日改めて強く心に誓いました」「今日この地で祖父に万感の思いを胸に馳せ、声なき声に耳を傾け、おじいちゃんの遺志はちゃんと届いています」「母が元気なうちに連れてきて



母に付き添い参加した孫が、センタニ湖を臨み追悼文を読む＝2月6日、ジャヤプラ・ネタールで

てもらいたいという願いが叶い、この地が平和と友好の場であれという思いをこれからも孫・ひ孫の世代に引き継ぎます」とそれぞれに亡き祖父に涙ぐみ語りかけた。

また、ジャヤプラで訪問した小学校では、生徒たちから盛大に歓迎され、日本から持参した学用品等を寄贈して友好親善を深めた。

2月9日午前、ピアク島の「第二次世界大戦慰霊碑」前に於いて、全戦没者遺骨収集隊員らと、

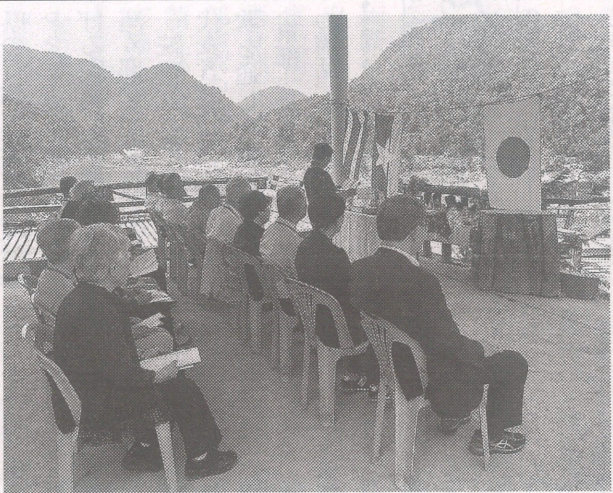
戦没者遺骨43柱が帰還 遺族の手でフィリピン等から

日本戦没者遺骨収集推進協会は、硫黄島、フィリピン、パラオ諸島に令和6年度遺骨収集派遣団を派遣し、硫黄島で33柱、フィリピンで5柱、パラオ諸島で5柱を送還した。千島ヶ淵戦没者墓苑で遺骨引渡式（硫黄島、フィリピンは2月13日、パラオ諸島は2月27日）が挙行され、出迎えた遺族代表、国会議員、関係団体代表等が見守る中、

派遣団員から厚生労働省職員へ遺骨が引き渡された。

硫黄島
硫黄島戦没者遺骨収集派遣（第4次）は、本会から6人が参加協力し、1月28日から2月13日の期間で実施された。

派遣団は、令和6年度第3次遺骨収集団からの継続である滑走路周辺の地表遺骨を中心に収容にあたった。硫黄島の気候



サルウィン河を挟んで、父が眠るミャンマーの地を見渡しての慰霊祭＝2月23日、タイ・バーンメーサムラップで

戦没しているが、ミャンマーは政局が不安定で入国が叶わないため、隣国のタイで父を慰霊追悼した。

訪問団は2月23日、メーホーソンから車で片道5時間かけてミャンマーとの国境の町バーンメーサムラップに赴き、慰霊祭を行った。サルウィン河の向こうに広がる

父が眠るミャンマーの地に向かつて、ひとりひとりが追悼の言葉を讀み上げ、語りかけ、慰霊祭の終わりに「お父さん」と全員で呼び掛けた。

24日、チェンマイで、原田優在チェンマイ日本国総領事主催の昼食会に招かれた訪問団は、会食後、バーンカートウィタヤーコム校を訪ね、日

戦没者遺骨収集事業 令和7年度参加登録始まる

日本遺族会では、令和7年度戦没者遺骨収集事業への参加希望者の事前登録を行っている。孫、ひ孫、甥、姪等の青年部も広く登録願いたい。

申込登録要項は次のとおり。

▼実施予定地域
【南方及び北方地域等の遺骨収集】
①フィリピン ②東部ニューギニア ③ビスマーク・ソロモン諸島 ④インドネシア ⑤パラオ諸島 ⑥マリアナ諸島 ⑦トラックス諸島 ⑧マーシャル諸島 ⑨ギルバート諸島 ⑩ミヤンマー ⑪インド ⑫バングラデシュ ⑬モンハン

日本遺族会では、令和7年度戦没者遺骨収集事業への参加希望者の事前登録を行っている。孫、ひ孫、甥、姪等の青年部も広く登録願いたい。

申込登録要項は次のとおり。

▼実施予定地域
【南方及び北方地域等の遺骨収集】
①フィリピン ②東部ニューギニア ③ビスマーク・ソロモン諸島 ④インドネシア ⑤パラオ諸島 ⑥マリアナ諸島 ⑦トラックス諸島 ⑧マーシャル諸島 ⑨ギルバート諸島 ⑩ミヤンマー ⑪インド ⑫バングラデシュ ⑬モンハン

本語学科の高校生15人と日本に関心のある中学3年生45人の歓迎を受けた。日本の文化に触れてもらうために将棋やけん玉、

26日、カンチャナブリで、在タイ日本国大使館、堀原徹大使が参列の下、泰緬鉄道建設中に犠牲となった捕虜や労働者を弔うために日本軍鉄道隊が建てた慰霊塔の前で、ブルマ・タイ全戦没者追悼式を挙行し、戦没者の冥福を祈った。

本会事業の推進に賛同いただける者
※派遣者は、健康診断書並びに宣誓書等の提出が義務付けられており、参加の有無については、遺骨収集事業を主催する日本戦没者遺骨収集推進協会の判断に従う。

参加登録方法
登録にあたり申込用紙を取り寄せ、全ての項目に記入した上で、在住する各都道府県遺族会事務局に提出願いたい。

なお、参加希望者が指定された定員を上回る場合は選考となる。

令和7年度慰霊友好親善事業 定である。

日本遺族会が厚生労働省から補助を受けて実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」の令和7年度事業計画概要が、このほど固まった。

最後の事業実施となる実施地域は、フィリピン地域を1次と2次として2回に分けて実施する予定である。

参加費は10万円。また、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐことを目的として、付添者で戦没者の孫、ひ孫、甥、姪は国より3分の1の補助で参加できる。

※募集要項の詳細は次号で

中央に生い茂っているガジュマルの木を伐採した。アンガウル島は、集団埋葬地のサイパン日本人墓地で推定20柱を収容し、検体を採取した後、日本へ送還した。

日本遺族会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に、心よりお礼申し上げます。

賛助者名（敬称略）カ
タカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等）
山下裕子、根本征子、
平井美津子、堀内小春、
横田久、星屋英文、星屋
雅義、渡部イッ子、桑原
茂樹、島田幸男、船橋美
奈子、徳永邦雄、柄澤弘
子、丸山ヤスヨ、萬木正、
コガトシロウ（以上、2月
1日から2月末日まで）



焼骨した遺骨の前で追悼文を読む団員＝2月10日、フィリピン・ルソン島で

にはない寒さの中、団員は手掘りで地表にある土砂を排除して、遺骨の発見に努めた結果、滑走路北側で15柱、西側で15柱、南側で3柱を収容した。

フィリピン
フィリピン戦没者遺骨収集派遣は、2月8日から2月13日までの期間で実施され、本会から関係遺族2人が参加協力した。

派遣団は、平成30年にマニラ市内及びタルラック州バンバンで収容した遺骨で、DNA鑑定で日本人であると判定された遺骨5柱を現地の火葬場

で焼骨し、本邦へ送還した。

フィリピン地域では、平成22年当時、厚生労働省が「海外未送還遺骨収集事業」を委託したNPO法人が収容した遺骨にフィリピン人の遺骨が含まれているという疑惑が生じ、遺骨収集事業が中断していた。その後、平成30年に事業が再開されて以降、初めて遺族の手によって遺骨が送還された。

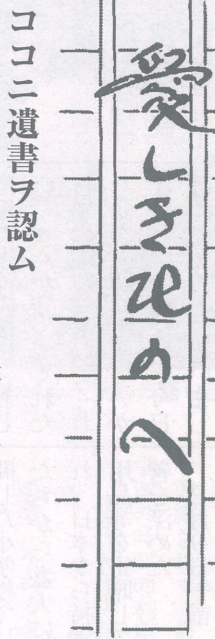
参加者募集 沖縄平和祈願慰霊大行進 平和の語り部体験型へ参加を

日本遺族会では、沖縄県遺族連合会と共催で実施する「沖縄平和祈願慰霊大行進」の参加者を募集している。終戦80年の節目の年に平和の語り部事業の体験型として、全国から組織の後継者である孫、ひ孫、甥、姪等の青年部世代が積極的に参加し、次世代へ戦争の記憶を伝承する活動者として意識を高める機会としてほしい。

「沖縄平和祈願慰霊大行進」へは、全戦域の戦没者遺族が参加可能である。

戦争の記憶を次世代へ伝承するために、先の大戦で多くの尊い命が失われた沖縄戦を振り返り、

- 砲弾降りしき中、苦難の撤退を余儀なくされた戦没者が辿った道を行進し、平和を願う体験にぜひ参加を。
- ※費用には宿泊代、食事代、バス借上げ代、添乗員費用、懇談会費用等が含まれる。
- ②参加人数により費用が異なる。
- 24日(火) 2泊3日。
- 費用 4万円〜5万円程度。
- ※費用には宿泊代、食事代、バス借上げ代、添乗員費用、懇談会費用等が含まれる。
- 参加者募集要項は以下のとおり。
- 期間 6月22日(日)
- ③参加人数により費用が異なる。



ココニ遺書ヲ認ム

海軍少佐 杉崎 直

昭和二十年三月三十一日
西九州方面にて戦死
大分県直入郡竹田町出身 二十六歳

十月二十五日午前 在支米空軍大尉皇土三来襲
大村地区二爆撃ヲ加フ 神州護衛ノ任タル吾等戦機隊ハ之ヲ邀撃シタルモ大ナル戦果ヲ挙げ得ズ (中略)
抑、吾等日本人タル者 皇國ニ生ラザルハ各々其ノ分ヲ盡シテ皇運ヲ扶翼セシガ為ナリ即チ吾等ハ國家ノ為 死スベク生ラザルヲ望ミタルナリ
サレバ 皇運ヲ扶翼センガタメ分ラ盡シテ死スルハ當然ノコトナリ然ラバ吾人ノ分トハ何ゾ 皇土護衛之ナリ(中略)是ニ敵敵ニ神明ノ誓ヒタルハ一死以テ君恩ニ報イ 南方ニ散レル戦友ト共ニ神州護衛ノ鬼トナラン事也 國家興亡ノ秋ニ當リ鴻毛ノ軽キ生命ヲ 皇國ノ礎トナシ得ルヲ思ハ其ノ光榮ニ感泣措ク所ヲ知ラズ願ハクバ 天明吾真心ヲ享ケラレン事ヲ

辞世

天皇の御國護りて大空に

二十有五の命さげむ

体当たり今日は吾身の花見かな

【令和七年三月靖国神社頭掲示】

愛しきものへ

語り部育成の取組み 静岡、富山で研修会開催

2月14日、静岡県遺族会では、静岡県遺族会が主催する「語り部育成の取組み」の研修会を開催した。

会場は静岡市清水区にある「語り部育成の取組み」の研修会会場。参加者は、語り部の育成に貢献したいという思いで参加した。研修会では、語り部の役割や活動方法について、講師から説明を受けた。また、語り部の育成に貢献したいという思いで参加した。研修会では、語り部の役割や活動方法について、講師から説明を受けた。また、語り部の育成に貢献したいという思いで参加した。研修会では、語り部の役割や活動方法について、講師から説明を受けた。

大分県で日章旗返還 元米兵の孫から遺族へ

2月12日に開催された返還式で遺族へと返還された。

戦没者等の遺留品返還に伴う調査事業で、OB ONソサエティから本会に調査依頼があった日章旗の持ち主が大分県で判明し、日章旗を保管していた元米兵のひ孫が来日した。

日章旗の持ち主が竹田市出身で昭和20年1月にフィリピンで戦死した工藤文夫さんのものであることが分かった。大分県遺族連合会、竹田市遺族連合会、都野遺族会が調査し、文夫さんの甥にあたる工藤賢さんの所在を突き止めた。

元米兵の曾祖父の遺品として旗を受け継いだアメリカ・ジョージア州在住のひ孫のクリス・ドーシーさんは、日本に来て遺族へ直接手渡したいという強い意志で、返還式のために来日した。

返還式は、文夫さんの出身地の都野地区で催され、本会を代表して出席した水落敏栄会長は「長年にわたり日章旗を大切に

に保管されていたクリス・ドーシーさんがアメリカから来日され、直接ご遺族に日章旗を引き渡されることが大変ありがたいことであり、心からの敬意を表します」と挨拶した。

返還式後、都野地区出身の戦没者113人を慰霊する墓に移動し、工藤さんとドーシーさんは文夫さんの名前が刻まれている墓石に、日章旗が帰ってきたことを報告した。

工藤さんは「旗が返ってきて初めて(叔父が)帰ったという気持ちがある」と涙ながらにドーシーさんに感謝の気持ちを伝えた。



クリス・ドーシーさんから受け取った日章旗を掲げる工藤賢さん=2月12日、大分県竹田市で



自分史作成シートを通して思いを語る参加者=2月28日、富山市で

山本甚克常務理事は、組織継承は難題だが、世代を超えて語り部を育てていくことが大切だと述べた。